

地域プラットフォーム形成支援の目的・意義

- PPP/PFI手法の活用推進に向けて地域プラットフォームの役割を明確化のうえ形成を支援し、今年度の運営支援を通しその役割の実効性を検証する
- ケーススタディの実施により、地域プラットフォームを通じた具体的な案件形成に資する支援を行う

静岡市が目指すPPP/PFI案件形成の仕組みと地域プラットフォームのあり方

①官民連携に向けたこれまでの取組

- **優先的検討指針の策定**: 公共施設整備事業及び未利用市有財産利活用事業を対象に、PPP/PFI導入を優先的に検討するプロセス等、必要な事項を規定
- **民間発案制度の検討**: 民間ならではの発想・アイデアを受け付けるため、公共施設整備事業及び未利用市有財産利活用事業を対象に、「公共サービスの向上」「財政負担の削減」「市有財産の有効活用」に資する提案を募集
- **静岡市公民連携推進に向けた説明会の開催**: 自らの官民連携推進の取組に関し、地元企業を中心とした民間事業者や市職員に広く情報発信、PPP/PFI事業への地元企業の参画促進を目的に平成29年度に開催

継続的なPPP/PFI案件形成に向けた環境が整った
多様なルート・視点からの事業発案／庁内検討の手続き整備／
庁内横断的な検討体制の構築／官民対話の場の設置

各取組を有機的に連携させた体系的な案件形成の仕組み構築が必要

実施体制

- **コアメンバー**: 静岡市【官】／静岡市地域金融機関【金】
- **構成員**: 静岡市内外の民間事業者【産】

地域PF形成・継続的な運営に向けてのロードマップ

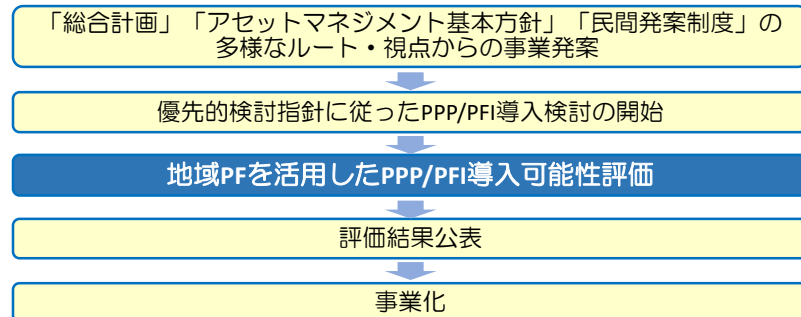
- 第1期(平成30年): 地域PF形成の準備
- 第2期(平成31~33年): 地域PFの立ち上げと広域化の模索
- 第3期(平成34年以降): 地域PFを基盤とした広域での継続的なPPP/PFI案件形成

②静岡市が目指す地域プラットフォームのあり方

● 位置づけ

PPP/PFI導入可能性評価の要

以下のフローがPPP/PFI案件形成に係る静岡市の政策決定プロセス(案件形成の仕組み)として機能するよう、静岡市地域プラットフォームが評価の要・基盤となる



● 役割

【役割1】PPP/PFIとして実施する事業の選別を民間事業者に確認する場としての役割

【役割2】「簡易な検討」における市の判断を後押しするための民間事業者の意見聴取・対話の場としての役割

【役割3】PPP/PFI導入評価結果に関する情報発信の場、公募条件(事業スキーム)等に対し意見を聴取する場、ネットワーク構築の場としての役割

● 静岡市地域プラットフォームが目指す地域将来像

地域PFをPPP/PFI導入可能性評価の要・基盤とし 静岡県下でPPP/PFI事業が継続的に形成され、それが地元企業の事業機会となることで、**地域が主体**となって『健全で持続可能な都市経営の実現』を可能とする

具体の実施内容

主催：静岡市

共催：静岡銀行、清水銀行、しずおか信用金庫、静岡信用金庫、日本政策投資銀行

第1回（平成30年9月20日）

第1部 講演

〈目的〉

- PPP/PFI導入の必要性への理解促進
- 民間事業者のPPP/PFI事業への関与のあり方に関する理解促進
- 案件形成の仕組みの試行（個別対話）

【役割2】の実践／【役割3】の実践

〈内容〉

1. PPP/PFIにおける国の政策動向について
2. PPP/PFI手法を活用した公共施設マネジメント事例について
3. 大宮区役所新庁舎整備事業について

第2部 個別対話

- 新清水庁舎建設事業
- 旧青葉小学校跡地利活用
- 城北公園Park-PFI検討
- 静岡県果樹研究センター跡地利活用

第2回（平成30年11月26日）

第1部 講演

〈目的〉

- 地元企業の事業参画に向けての機運醸成
- 案件形成の仕組みの試行（個別対話）

【役割3】の実践

〈内容〉

1. 地域参画によるPPP/PFIの推進へ向けて
2. 地元企業としてのPPP/PFI事業への取組

第2部 個別対話

- 海洋文化拠点施設整備事業
- 生涯活躍のまち（CCRC）構想
- 市営上土団地におけるPPP/PFI手法の検討
- 県営住宅麻機北団地の福祉施設用地を活用した社会福祉施設の設置・運営

第3回（平成31年2月28日）

第1部 講演

〈目的〉

- 今年度の公民連携説明会の成果報告及び来年度以降の活動に係る情報発信
- 民間ノウハウ発揮のポイント・着眼点に関する気づきの提供
- 案件形成の仕組みの試行（個別対話）

【役割3】の実践

〈内容〉

1. 今年度の公民連携説明会の成果報告と今後の活動について
2. PPP/PFI事業における民間ノウハウ発揮のポイント

第2部 個別対話

- 城北公園Park-PFI検討
- 新清水庁舎建設事業
- 旧青葉小学校跡地利活用
- 海洋文化拠点施設整備事業

事業の成果（各役割の実効性の評価と課題・対応方法）

【役割1】

- 対話対象を想定していた小規模事業は既存施設の改修・建替事業であり、利用者の諸事情を踏まえた制約あり

【役割2】

- 対象財産のポテンシャル・市場性の把握の場として機能
 - 民間の意見を引き出すためには、行政の想定（事業概要等）をより具体的に示すことが望ましい

【役割3】

- 民間事業者の参画意向把握の場として機能
- 行政側にとって事業成立に向けての課題把握の場として機能
- 民間事業者側にとって参画に向けての事業内容・条件等の確認の場として機能
- 活発な競争環境づくり（参画促進）に繋げる場として機能
 - より具体的な対話の場とするには行政が想定する事業条件を示すことが望ましい

地域PF通じた案件形成

- ケーススタディ案件：城北公園へのPark-PF
[公募対象施設] 飲食物販施設/子育て支援施設/駐車場（特定公園施設とする案も想定）
[特定公園施設] 大型遊具／外構

● 支援目的

地元造園事業者を中心に参画に向けての意識醸成

● 支援内容

地域PFを通じたサウンディング（第1回・第3回で実施）
静岡市造園緑化協会を通じた地元造園事業者の理解促進

● 成果

地元造園事業者のPark-PFIに対する理解が進み、城北公園Park-PFIへの参画に向けた積極的な意向が確認できた

● 次段階に向けての課題

Park-PFIならではのメリットを伝え、地元造園事業者の参画を確実なものとする

